

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 3 月 7 日

### 【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491500785		
法人名	医療法人社団 ひがしの会		
事業所名	グループホームえんじゅ千織り庵		
所在地	広島県福山市王子町2丁目4-17		
	電話番号	084-926-0833	
自己評価作成日	令和 2年 1月 25日	評価結果市町村受理日	令和 2年 6月 5日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.higashinokai.jp/">http://www.higashinokai.jp/</a>
----------	---

### 【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 2 年 2 月 25 日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所のコンセプト【千の想いを紡ぎ織り上げ、笑顔と温かさで包み込む家】にあるように、施設にいても家庭の雰囲気を感じられ、介護施設らしくない環境を意識しています。 事業所が住宅街の中に位置している事から、地域とのつながりを大切にしており近隣の方々との交流や地域行事への積極的な参加も利用者の方と行う事で、つながりを深めています。 同時に、ご家族との関わりも途切れる事のないよう行事参加の声掛けや日々の面会、病院受診同行等の依頼を行い、充実するよう取り組んでいます。 1ユニットという小さな事業所ですが、利用者の方々と職員、ご家族様や地域が信頼関係を築き、個々の意思を尊重し、ケアにあたる事で日々の生活を安心して、のびのびと過ごして頂けるように心がけています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地の中にあるが、近隣には公園や行政機関(医師会、社会福祉協議会、市保健所等)がある。又、大型スーパーも少し行くところあり、とても便利な場所である。周りは住宅街ではあるものの畑が目の前にあり、散歩時には時々収穫が見られ、季節が感じられると共に静かな環境である。利用者も穏やかに過ごす事ができている。同法人の事業所[小規模多機能]が併設されていて、共に協力し合い、それぞれの利用者を支えられ交流も図られている。当事業所は利用者9名という事もあり、一人ひとりに密に寄り添い、個々の思いを汲み取り、思いに沿った支援を心掛け、一日を大切に笑顔で自分らしく過ごしてもらえるよう取り組まれている。また、身体的な変化にもいち早く気付く事も出来、速やかな対応ができています。地域との関わりも沢山の行事に参加し、温かく迎えてもらえる関係が構築されている。地域の一員として総会や親睦会等にも出席し、日常的に交流され、理解も深まっている。家族との信頼関係も年1回満足度アンケートを実施し、家族の意見や要望等様々な角度から多くの意見や要望等が得られている。各項目に対する意見等は真摯に受け止めると共にそれらを集計し、改善点も明確にされ、各家族に結果報告を送付され、常に家族との信頼関係、何でも言い合える関係を築き、地域、家族、三者で利用者を支える様職員一丸となり取り組まれている。今では地域根付き、地域との関係も構築され、その地に無くてはならない事業所となっている。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、事務所や玄関に掲示し、会議でも周知している。掲示だけでなく、口頭でも行うことで、職員間で共有し実践に繋げている。	企業理念、法人目標、事業所目標を基に個人目標を作成すると共に事業所独自の理念や企業理念を玄関や事務所に掲示もされ、日々それぞれの理念、目標を意識し、全職員がコンセプト「千の思いを織り上げ笑顔と温かさのある家」を共有し、実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や会合、懇親会に事業所として積極的に参加することで、地域の一員として日常的に交流することが出来ている。また、出るだけでなく、事業所で行う場合には、地域の方に声掛けをしている。	地域行事(敬老会、夏祭り、クリスマス会、サークルのイベント等)に参加すると共に近隣の幼稚園との交流や文化祭には作品を展示する等、色んな場面で交流されている。事業所の周年祭にはチラシを配布し、沢山の方の参加が得られ、今では日常的に交流ができています。総会や親睦会にも参加し、地域の一員になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事にお客様と一緒に参加し、地域の方とも交流を図ることで、認知症の方の理解や支援の方法を知って頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催。施設の運営状況を報告。行政や家族様、地域の方から頂いた意見の中で、すぐに取り入れられるものは取り入れ、サービスの向上に努めている。	家族、利用者、民生委員、行政2名、包括職員等の参加の下、現状を広範囲に報告し、意見交換の場とし、それぞれの方から意見や情報が得られサービスに活かしている。勉強会となる事もある。また、日頃の様子は写真等を見てもらい把握してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談や確認することがあると連絡している。連絡するだけでなく、市や地域包括が主催している行事に参加するようにし、協力関係を築ける様になっている。	疑問点等がある場合は電話や出向き、相談や意見、助言等をしてもらっている。運営推進会議に参加が得られ、取り組み状況は理解が得られている。又、包括主催の勉強会や認知症カフェにも参加し協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間と裏口は防犯上、施錠しているが日中の施錠は行っていない。身体拘束を行わない為に、3か月毎に話し合いを行い、勉強会を行うことで、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会で3ヶ月毎に話し合いや事例を基に勉強会を行い、全職員が正しく理解され、身体拘束はしないケアに取り組まれている。不穏な方には要因を把握し、制止せず、気分を変えてもらう様な工夫をされ、抑圧しない支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を実施。研修の年間計画に入れ、振り返りの機会を設ける事、職員間でも声掛けをすることで虐待が起らない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居されているお客様に成年後見制度を使用されているお客様はおられないが、勉強会や自己学習をして頂く事で、制度や仕組みについて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居やサービスプラン変更時には、必ず説明を行い、不明な点は説明を行い、ご理解納得して頂いた上で、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のお客様アンケートの実施。 アンケート結果や頂いたご意見を会議で話し合い、掲示することで職員間に周知し、対策を検討・実施している。 玄関窓口にご意見箱の設置をしている。	訪問時や行事等で現状を報告する際、意見や要望を聞くように努めている。また、年1回家族アンケートを実施し、意見や要望等に対する回答や改善策等をまとめ、各家族に送付されている。また、玄関にも掲示している。色んな場での意見等は運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談時だけではなく、必要に応じて、職員の話聞く機会を設けている。	ミーティングや日々のケアの中で気づきがあれば聞くようにしている。申し送りノートも利用し、多くの意見や提案を聞くように努め、検討すべき案件は、会議で検討し反映させている。個人面談も年2回実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や上司評価を元に、職員個々の実績等を把握し、各自が向上心を持って働けるような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する法人内外の研修に参加する機会を確保する為に、シフトを調整し参加できるようにしている。 また、事業所内でも研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や地域会議に参加し、他事業所の方と交流や意見交換を行う事で自事業所に戻ってからのサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の声に耳を傾け、教えて頂いた情報を職員間で共有する事で、安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の声や想いに耳を傾け、聞き取りを行ったり、教えて頂いた事を職員間で共有する事で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様は必要としているサービスは何なのかを見極め、職員間でも話し合いを行い、利用される方に合った対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や日頃の何気ない会話、作業を一緒に行う事で共に過ごし、支えあえる関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様、ご家族様の想いを知る事で共に支え合えるような関係作りを行う為に、行事参加への声掛けを行い、参加して頂き、共に支えていく関係を築く様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの人や場所との関係が途切れない様にご家族様に声掛けを行い、面会に来て頂く等して関係が途切れないよう支援に努めている。	家族や親戚の訪問も定期的であり、家族とお墓参りに行かれたり、お正月には日帰りされる方もいる。また、希望で生まれた場所までドライブすると昔馴染んだ景色やその時の状況を思い出されとても喜ばれた。できるだけ馴染みの場や人との関わりが途切れない様柔軟な支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が難しい場合には、職員が間にはいる事で、お客様同士の関わりが持てるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わった後も事業所行事への参加の声掛けや来所して下さった際には、近況を聞いたりと環境を断ち切らない関係作りの努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月毎のモニタリングだけではなく、日々の会話の中から出てきた本人様の希望や意向が出てきた場合には、会議や申し送り等で共有し把握している。	会話する時間をできるだけ多く持ち、何気ない話から汲み取るようにしている。外食や買い物、食べたいもの、健康面、健康で生きていたい等の思いが出る。可能な限り想いに沿えるよう努めている。困難な方には声かけや選択史を出し、その時の表情から把握し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様から話を聞くことで、その方の生活歴を把握し記録に残していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックを行う事での体調管理、日々の会話や関わりの中から情報収集を行う機会を意識し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の希望や意向を元に職員からの意見とケアマネが話を行う事で、意見やアイデアをサービス計画書に反映している。	家族、本人の希望、主治医の所見、カンファレンスで課題やニーズについて職員間での意見等を基に担当者会議で検討し、現状に即した柔軟な計画を作成している。モニタリングや見直しは3ヶ月毎となっている。全職員に周知すると共に家族の承諾も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況を記録に残し、職員間で情報共有したり、見直しの際に活かそうとしているが、記録内容が足りない部分がある場合には、都度指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズや本人様、ご家族様の希望に沿い行事等に盛り込みながら柔軟に支援が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の会合には管理者等が積極的に参加し、地域資源の把握をしている。 地域行事には、お客様と一緒に参加する事で、地域に事業所を知って頂く機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、主治医の往診で対応しているが必要に応じて関係医療機関の受診をして頂く場合がある。 受診の場合には、基本のご家族様に対応して頂くように案内を行っている。	協力医療機関の往診が月2回、訪問看護が週1回来られ、日々の健康管理をされている。かかりつけ医や他科については家族対応となっていて日々の状況を家族に伝え主治医に報告してもらっている。また、結果も家族と共有している。24時間指示が得られる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期往診。必要時には電話連絡を行い、24時間対応で指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、関係各種が協力しお客様の情報を報告。 退院に向けてもこまめに情報共有を行い、本人様・ご家族様に安心して退院して頂けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、本人様やご家族様の意向を機場合もあります。 必要に応じ、本人様やご家族様の意向を再度伺い、関係職種で連携し、話し合いの場を設けながらチームで支援を行う様にしている。	利用開始時、看取り指針を基に説明し理解は得られているが、重度化した場合は、家族に事業所として出来ること出来ないことを説明すると共にその都度意向の確認を行い、主治医、訪問看護師、事業所等三者で話し合いを繰り返し行い、方針を共有し、連携を取りながらチームで支援できる体制作りに取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、マニュアルがあり内容を事業所内勉強会等で確認。初期対応が落ちていて出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の事業所での防災訓練、地域で行われる防災訓練には、お客様も一緒に参加している。 法人での避難訓練では、炊き出し訓練等も行っている。	年2回(消防署指導、自主)通報、消火、避難誘導等の訓練を実施し、地域の方の参加も得られている。運営推進会議でも協力をお願いもされ協力体制強化に努めている。又、地域の防災訓練にも参加し、実践力を身につける様取り組まれている。法人全体で炊き出しの訓練もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待防止や接遇を研修内容に取り入れ、職員一人ひとりが意識しながら、お客様と向き合う様にしている。	プライバシー、個人情報、接遇の研修は実施している。人生の先輩であると言う事を常に念頭に置き、個々の尊厳を大切にしたい声かけや対応をする様周知している。馴れ合いになっても節度ある対応を心掛け、職員間で気付いた時には注意し合い、プライバシー確保に努めている。書類に関しても適切に処理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話や言動の中で、少しでも吸い上げる事が出来るような支援を行い、自己決定が出来る場面では可能な限り、個々の決定に委ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、お客様のペースを大切にしながら、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性のお客様だと使い慣れた化粧品を持参して頂き、使用して頂く。外出の際には、本人様と話をしながら着替えの準備を行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯炊きや汁物作り、盛り付けやお盆拭きなど、お客様が出来る事は手伝って頂き、食事形態は個々に合わせた形で提供させて頂いている。	下ごしらえやおみそ汁作り、下膳等力量により、声かけし、職員と共にされている。また、個々の身体状況に合わせ、急がさず個々のペースを大切にされ、食を促す声かけをしながら楽しみの時間となっている。皆さん完食。味付けも薄味で食材も多く、栄養バランスにも配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人様の状態に合わせて、細かく申し送りを行いながら、個々に合った食事形態や量、飲み物の種類を提供している。 食事や水分摂取量は記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや一部介助を行いながら口腔ケアを実施。最後には、口腔内の環境を確認させて頂き、清潔が保たれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンを理解し声掛けや誘導を行っている。出来る限り、トイレでの排泄が行えるように支援している。	個々の時間帯で声かけし、トイレでの排泄に努め、生活習慣や機能維持、気持ち良く排泄できる支援に取り組まれている。二人介助の必要な方にもトイレ誘導を行い、少しでも立位、座位をしてもらう事で持てる機能が活かされる様務めている。自立の方も複数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を行い、便秘予防の食べ物(オリゴ糖やヨーグルト等)の提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は職員の都合上、午後からの入浴となっている。希望やタイミングは、限られた時間の中で、本人様と話をしながら対応している。	週2~3回、時間帯は午後となっている。個々の希望に対しては、できる限り沿うように努め、入浴が楽しめる様務めている。拒否の場合はタイミングや対応者を変える等、工夫をしながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、本人様に決めて頂いている。夜だけでなく、日中でも本人様の希望に沿って休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別、時間帯別の薬札へ用法用量の記載を行っており、誰が見ても分かるようにしているが薬全ての副作用までは理解しているとは言い難い。体調やいつもと違う症状が見られる時には、記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の声に耳を傾け、楽しみとして、歌を歌ってみたり、食べたいもののリクエストを聞き、気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	回覧板を近所に持って行って頂く。天気の良い日には散歩に出かけたり、季節を感じて頂ける様な場所へのドライブ。外食希望に添うために、ご家族様に連絡した上で外出支援を行っている。	地域行事が沢山あり、個別対応ではあるが、あらゆる行事に参加している。また、四季の外出(初詣、お花見、お雛さん見学)、希望でドライブ、家族との外出、すこやかセンターの認知症カフェ等へ参加する等、気分転換や五感刺激、楽しみごとの支援に努めている。天気の良い日には散歩に出かけ、外気に触れる機会も持たれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりは基本的には行っていない。 ご家族様にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様からの希望があれば、職員付き添いの上、連絡をしている。 電話や手紙のやり取りをする際には、事前にご家族様に両省は得ておく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでは、月毎に装飾を変更しており、季節感を感じて頂ける様に配慮している。 心地よく過ごして頂くために、温度や湿度の管理も行い、太陽の光を入れながら明るさの調整も行っている。	玄関には理念や季節ごとの装飾品(お雛さん)が飾られている。リビングは広く、大きなソファも置かれ、吐き出しの大きな窓から、明るい陽射しが差し込み、ゆったりとした空間である。死角や危険箇所もなく、不快な匂いもなく清潔に保たれている。また、加湿器も置かれ、室温にも配慮され、快適に過ごせる共有の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置をお客様が過ごしやすいように変更したり、ソファでゆっくりと過ごして頂ける様に工夫している。 フロア全体が広い空間となっている為、思い思いに過ごせて頂けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類や写真等、自宅から本人様の思い出や馴染みのものを持参して頂き、飾らせて頂いたり、使用する事で、心地良く過ごして頂ける工夫を行っている。	家族やお孫さん等の写真が多く持ち込まれ、家族が身近に感じられる配慮をされている。テレビもあり、作成されたぬり絵や折り紙なども飾られ、その人らしさが感じられ、自宅とのギャップが無い様な工夫をされ、落ち着いた過ごせる環境づくりとなっている。加湿器も置かれ室温にも気をつけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所全体がバリアフリーの作りになっており、フロアやトイレ、浴室等には手摺がある為、必要に応じて使用して頂く事で、安全な生活を提供している。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/>	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/>	①ほぼすべての家族と
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいの			<input type="checkbox"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいの			<input type="checkbox"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	④ほとんど掴んでいない			<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/>	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に一度程度ある			<input type="checkbox"/>	②数日に1回
		<input type="checkbox"/>	③たまにある			<input type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない			<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/>	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが			<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが			<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない			<input type="checkbox"/>	④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	<input type="checkbox"/>	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが			<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが			<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない			<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている	<input type="checkbox"/>	①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが			<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが			<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない			<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="checkbox"/>	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが			<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが			<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない			<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="checkbox"/>	①ほぼすべての利用者が				
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが				
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが				
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホームえんじゅ千織り庵

## 目標達成計画

作成日: 令和 2年 6月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	会議や面談を実施する機会を設けているが、話し合いの内容が薄く、申し送り内容が周知不足などところがあり、職員意見の反映が不十分などところがある。	職員の意見の反映ができる環境を作る。	会議内容を濃くする事のできる議題設定、話し易い雰囲気づくり、申し送り方法を工夫する事で確実に周知していく。	通年
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。